

パリで漢字文化の魅力伝えたい

書道の既存の組織から独立して漢字文化の魅力を世界に広めるなど独自の活動を展開している書家の成澤翠玲さん(33)は千葉県が11日、パリで書道のワークショップに挑む。「寿司やラーメンだけではない、和の文化のすばらしさを知ってほしい」と呼びかけている。

ワークショップでは「字があっという間にうまくなる」というイメージトレーニングを交えた独自の書道方法をフランス人相手に指導する。

OL生活をしながら書道の

修業を続け師範を取った後、退職して東京や横浜に書道教室を開いた。書壇に所属していたが、「旧来のしがらみから離れたくて」と、書道の組織や協会からも独立して文字通り、自分の目指す書道のありかたを模索した。

IT(情報技術)時代の若い感性から生まれたのが、ネットを使って動く手本を配信する「動画の書道」だ。こうした「新書道」の普及にとどまらず、海外での活動も展開するようになった。

米国にはすでに数回渡り、

3月、ニューヨークで「舞」の文字を書き上げた成澤さん



成澤翠玲さんがワークショップ

今年3月にはニューヨークの国連本部の「フラワー・フェスティバル」に参加。縦2枚近い紙に「舞」の字を揮毫し、喝采を浴びた。「自分も踊るような気持ちで書きましたが、漢字が分からない外国人にも通じたようで、大きなリアクションがありました」。そして初のヨーロッパとなる今回は、パリ日仏文化センターで超高速学習法を披露する。「10年も20年も修業しなくても短期間でレベルアップが期待できる。外国人は字を象形文字のように絵でとらえる傾向がある。この学習方法は外国人向きかもしれない」。成澤さんはどんな手応えがあるか期待している。